

日本テレビ放送網株式会社
2025年6月6日

第51回 放送文化基金賞 放送技術部門 5年連続受賞

日本テレビ放送網株式会社(本社：東京都港区、代表取締役社長執行役員 福田博之、以下「日本テレビ」)は(公財)放送文化基金にて、「3Dスキャンワークフローの簡易化とその活用」のテーマが第51回放送文化基金賞を受賞しましたことをご報告いたします。放送技術部門では、昨年に続き5年連続の受賞となります。

この賞は毎年、放送に関連する技術の研究・開発、あるいは放送現場での工夫・考案で効果を上げた技術により、顕著な業績を残した個人またはグループを対象に授与されるものです。

日本テレビでは、今後も積極的な新技術の導入により、皆様へ魅力的なコンテンツをお届けできるよう更なる開発を進めてまいります。

受賞テーマ： 3Dスキャンワークフローの簡易化とその活用

本開発では3D Gaussian SplattingというAI技術を用いることで3Dスキャンのワークフローを大幅に改善し、誰もが容易に扱えるシステムを目指しました。主に以下の点が高い評価を受け、受賞に至りました。

- ① スキャンにあたって専用機材を必要とせず、スマートフォンで撮影した映像データのみから、わずか数時間で高精度な3DCGを生成可能です。
- ② 本技術により、従来は専門的な知識や高価な機材が不可欠であった3Dデータの生成が容易になり、多様なコンテンツへの活用が大きく広がりました。具体的には以下のようないくつかの活用例が挙げられます。
 - ・競技コースCGの迅速な自動生成、ならびに実寸大クライミングウォールのスタジオ内でのリアルタイム合成
 - ・特設サイトにおける、能登半島地震の被災状況を伝えるデジタルアーカイブの構築と3Dビューアの実装

<https://news.ntv.co.jp/pages/notojishinkiroku>

輪島の記憶を遺す

3Dで知る能登半島地震

企画・収材・編集：日本テレビ



能登半島の3Dビューア

●受賞者のコメント

★起案／開発 戸部雄輝（技術統括局 コンテンツ技術運用部）

岸楓馬（技術統括局 デジタルコンテンツ制作部）

本システムを活用することで、3Dによる表現が容易となり、被災地の状況を立体的に可視化するなど、新たな報道の形を提示するとともに、防災・減災への貢献の可能性を示すことができました。このたびの名誉ある賞の受賞に、心より感謝申し上げます。

～過去の放送文化基金賞【個人・グループ部門】 -放送技術- 受賞歴～

() 内：受賞時の年度で記載しております

●第 50 回 ボリュメトリックビデオを用いたプロ野球中継

(2024 年度) (共同受賞) キヤノン株式会社、株式会社読売新聞東京本社

●第 49 回 AI モザイクソフト「BlurOn」(ブラーオン) の開発

(2023 年度) (共同受賞) NTT データ

●第 49 回 制作系番組制作フローを効率化する DX ツール『Alligator』の開発

(2023 年度) (共同受賞) NEC、NTT 東日本、オクルウェブ

●第 48 回 AI 業務支援システム「エイディ」の社内開発と運用

(2022 年度)

●第 47 回 放送同時配信を実現するクラウドプレイアウトシステムの開発

(2021 年度) (共同開発) 株式会社 PLAY

●第 45 回 テレビ局におけるアンドロイドアナウンサー「アオイエリカ」の開発と活用

(2019 年度) アオイエリカプロジェクト

●第 44 回 ロードレース中継における画像認識技術を用いた制作支援～AI を用いた Real-time Indexing～

(2018 年度) 画像認識 AI 検討チーム (共同開発 東芝、東芝デジタルソリューションズ)

●第 41 回 デジタル連絡無線音声改善技術の開発

(2015 年度) 放送事業用連絡無線音声改善技術開発グループ

<以降省略>